

伝承あすか

第十九号

明日香村 伝承芸能保存会 の発展に念う

明日香村文化協会

顧問 境山正甫

枯れ葉にも

セカンドライフが 待っている

あの葉は

みの虫守る 家となり

その葉は きのこ育てる

寝床に なってやるそいな

とある待合所の壁に掛けてあるカレンダーに書かれている言葉です。

紅葉の時期になって私たちの心を癒やしてくれて美しかった葉は、落ち葉となって散って、地面に落ちた後も動物や植物を育てたり、腐葉土となって、その命は活かされていくの

です。そして落ち葉のくっついていた付け根には次の葉や花の新芽が顔を出しているのです。この生き物の輪廻は私たち人間の世界にも通じます。明日香村の文化協会や伝承芸能保存会で活躍されている皆さんは高齢者に属する年齢層の方が多く「後継者の育成」が大きな課題になり、議論的にもなっています。私は、わたしたち高齢者が枯れ葉となって散っていくことには「まだまだ」という気持ちがありますが、いつかは散っていかねばならない世代であることも承知しています。

私たちは高齢者が今やることはなんでしょうか。

それは体力と気力の続く限りそれぞれの文化活動に参加すること、大げさな言い方をすれば、伝承芸能の保存と継承のために貢献する事ではないでしょうか。

もう一つは継承をしていくため、「後継者の育成」をしていかなければならないと思います。我々がこ

で手を止めてしまったら、伝承の意味がなくなるのではないのでしょうか。「散っていく前に新芽を育てておきたいものです。」

嬉しいことに伝承芸能保存会に於いては多くの皆さんの努力と熱意の甲斐があつて、新芽の顔を見ることに出来たり、その新芽の膨らみを感じています。

その中でも八雲琴の「継承」活動には嬉しいものを感じています。

山本雨寶（震琴）師より直伝された方々が中心となって村内外で精力的に公演され、その音色をいろんな人たちに聞いていただき、八雲琴の魅力を広げてきておられます。そして演奏を志す人たちも、いろんな年齢層の方々が参加されてきているように思います。さらに小学校・中学校の協力を得て、子ども達へも、その調べが伝えられ、演奏を志す子ども達も増えていると聞きます。文化祭や新年互礼会で披露されたり、県内の奈良こども伝統文化協会（会長 藤間巡子氏）に所属して、五月の「平城京天平祭」、平城京跡、六月の「ゆり祭」三枝祭り・率川神社、八月の「燈花会子ども能舞台」奈良春日野国際フォーラム薨、十二月の「こども達と和のつどい」イオンモール橿原、二月の「なら一〇〇伝統芸能こ

ども文化祭」奈良一〇〇年会館中ホール、一月の「奈良古典芸能フェスティバル」興福寺会館、その他に「大和猿楽子どもフェスティバル」大淀町あらかしホールと、子ども達の活動も活発にされているように聞きます。

また、私の参加している南無天踊りにおいても、小学生の子どもが大人に混じって、踊りに参加しています。また、明日香小学校の三年生は郷土学習で、南無天踊りの鑑賞をしたり、運動会ではアレンジした踊りを披露しています。これらの子ども



も達の取り組みは大人になって、南無天踊りに参加するしないは別として、南無天踊りの存在や意味・意義を理解していく良い機会だと思います。

大人になっても「明日香村にこんな踊りが伝わっているのだなあ」という事に誇りを持ってくれるだろうと思います。最近、南無天踊りに加わっていた方が増えていきます。しかも、村内外から、中堅層の方が多いです。

古くから参加している先輩に習いながら、参加しておられる姿は伝承そのものの風景を感じます。

先日鬼籍に入られた島岡富雄様に、岡崎会長と一緒に南無天踊りの笛を習いました。古きから、バトンを託されたような気分だったことを思い出します。

万葉朗唱では村内はもちろろん村外での活動も年々増えてきています。明日香村伝承芸能保存会が主催する、万葉朗唱講座は犬養万葉記念館の岡本館長を講師に迎えて、定期的に開催され、練習も活発に行われています。

しかし、朗唱の会に於いても、高齢化が課題のように思います。

五十代から九十代までの広い年齢層に亘っているようですが、後継者の

育成が課題になっています。しかし、嬉しいことに、岡本館長のご尽力に寄りまして、小学生の皆さんが「なでしこ7」と言うグループで万葉集の歌に触れ、朗唱する活動が行われています。奈良子ども伝統文化協会にも参加されると聞いています。

明日香村には南都ふれあい犬養万葉記念館や県立万葉文化館などの施設があります。そして村内には四十余の万葉歌碑もあります。万葉集に触れる地域的に恵まれた基盤であります。



子どもも大人も容易に万葉集に触れることが出来ます。

朗唱の会が趣味の会から脱して、積極的に後継者の育成に努めて頂きたいと願っています。

最後に飛鳥蹴鞠についての私の考えていることですが、奈良や京都、桜井で行われている蹴鞠とは飛鳥蹴鞠は違います。発祥の源流を守っている蹴鞠だと思っています。しかし、蹴鞠の会は現在行事の時に、観光客に披露する活動が中心になっています。日常的に活動する手立てはないものか、多くの方々に参加して頂く方法はないものか。

伝承芸能保存会として議論するときはないでしょうか。

他の三分野で少し明るく見えてきている要素として、小学生や中学生の参加が共通して有ります。この教訓を飛鳥蹴鞠の会に活かさないだろうかと思えます。

伝承芸能保存会のメンバーの一人として、日頃思っている事を述べましたが、今ここで会員の一人一人が、それぞれの分野で楽しく活動されていることと思いますが、伝承という任務も担っていることを意識して活動したいものだと思います。

八雲琴

祖父から頂いた宝物

大庭 敦子

私がこの世に生を受けた時から耳にしていました八雲琴の音色。祖父である山本震琴の琴を弾く姿をずっと側で聴いて育ちました。祖父の部屋へ行くといつも八雲琴が置いてあり、私は自分のおもちゃのように弾いて楽しんでいた事を思い出します。

楽しく弾いて遊んでいる私の隣りにいつも祖父は座り、だまってほほえみながら見守ってくれていました。又、祖父の八雲琴を弾く姿をいつも身近で聴いておりましたので、私の生活の中には常にその音や曲が流れておりました。

祖父が他界しました後は、なかなか八雲琴にふれる機会がありませんでしたが、大学を卒業した頃、弾く機会を与えていただきました。

当時、明日香の響保存会は数名で活動されており、先生方にはとても丁寧の手厚くご指導いただいた事を鮮明に覚えております。

その後、結婚・育児の為、十年近く

お休みをいただいておりますが、昨年の十月から又復帰をさせていた
だくことになりました。

十年前に習っていた当時の教室と
雰囲気が全く違っており、小学生、
中学生の生徒さんや大人の方もた
くさん習っておられて活気あふれる
教室を目にしました時、この様子を
すぐにでも祖父に報告したい気持
ちになりました。祖父が大切にしてい
いた八雲琴、祖父が精一杯広めてき
いた八雲琴を習いたいと思っ下さる
方たちがこんなにもたくさんいらっ
しゃるのを拝見して、目頭が熱くな



山本震琴師の琴と写真・飛鳥寺所蔵（大紀元）

りました。感謝の気持ちと祖父の信
念を私もしっかり受け継いでいかな
ければならないという気持ちがあま
り以上におこってきた瞬間でした。

十年間のブランクは非常に大きく、
当時簡単に弾くことができていた曲
さえ思い出すのに必死という状況で
したが、幼少期から遊びの中で弾い
ていた経験、又先生方に丁寧な基礎
を教えていただいていたおかげで、今
またこうして皆さんと八雲琴を奏
でる喜びに浸ることができておりま
す。

祖父のような演奏者になるのは夢
のまた夢で、とても不可能な事と思
いますが、祖父が私に与えてくれた
八雲琴という最高の宝物を一生大
切にして、皆様から愛される八雲琴
演奏者になることを目標にこれから
も努力していきたいと思っております。

山本震琴師は飛鳥寺の住職

山本雨宝師(1903-1988)は、口伝で
あった八雲琴の演奏曲を採譜し、神前
楽器であった二弦琴を広く東洋音楽
として紹介し、後継者を指導するな
ど、継承を可能にした。八雲琴の演奏
者として国の無形文化財の指定を受
ける。

南無天踊り

南無天踊りを後世に

繋いでゆくお手伝いを

荒井一美

知人の紹介で、明日香南無天踊り
に入会させていただき、三年が経ち
ました。明日香村の隣に住んでいな
がら、南無天踊りの活動を初めて知
りました。月一回先輩方に丁寧な
指導していただいても、中々振付が
覚えられず、家でDVDを観たり、
近所の仲間と一緒に練習して、よ
やく形になりつつありますが、時々
間違えてしまう事もあります。

南無天踊りの会員の中には私の親
世代の方々もおられて、頑張りお
られる姿に頭が下がる思いです。活
動が元気の源になっているのでし
ょうね。その姿に元気つけられます。

今私は飛鳥京の観光ボランティア
ガイドも半年前からはじめました。
案内したお客様に、皇極、斉明天皇
のお話をする時に、天皇様が自ら雨
乞いをされて、雨を降らせたと
記述が、日本書紀に載っている事。雨

乞い儀式を継承する、明日香南無
天踊りが、日本遺産に選ばれている
事を、一人でも多くの方に知ってほ
しくて紹介しています。

明日香村の南無天踊りは暫く途
絶えていた時期があり、残されてい
た絵馬を参考に、各方面の方々のご
尽力により、復活されたと聞きた
した。

公演の後、雨が降る確率が高いとい
う不思議なパワーに驚いています。

雨乞いの儀式は日本各地で、その
歴史は残っていますが、日本で一番
古いとされる雨乞いの伝統や文化を
大切に守っておられる伝承芸能保存
会、明日香南無天踊りの一員として、
微力ながらも後世に繋いでいくお手
伝いができたらと思っています。

「日本国創世のとき、飛鳥を翔け
た女性たち」が、日本初の「日本遺
産」に平成二十七年四月二十四日に
認定されました。

斉明(皇極)天皇については、飛鳥
川上坐宇須多伎比売命神社・南無
天踊り・飛鳥稲渚宮殿跡・女渚・酒
船石遺跡(亀形石造物)他が認定さ
れています。

南無天踊り復元の恩人

芝 祐靖先生

「文化勲章」

受賞おめでとう

ございます



朝日新聞より抜粋

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

明日香南無天踊りは、昭和五十五年、復元に取り組まれました。十年以上おかしから続いてきて約六十年前に途絶えたものを蘇らせることは、そんなに難しいことではないと思われましたが、それは大変困難を極めたと聞いています。

衣装や楽器（鳴り物）は、神社に奉納されていた絵馬や残されていた遺

物から復元は可能でした。

歌詞の復元は旧家に残る唄本や近畿の「雨乞い踊り」を訪ねて整えられました。

ご苦労をされたのが、歌曲や楽器の使い時です。そこで、東京芸術大

学 芝 祐靖教授にお願いされたのです。先生は、奈良が拠点の八百年以上続く樂人の系譜を持たれ、二〇歳で宮内庁式部職の樂師になられました。横笛の名手でもあられます。大和の歴史に明るく、大和を愛する心が著名である先生に、明日香南無天踊り復元とその指導を懇願されたところ、先生はこれまでの長い間に渉る復元活動の事情を理解され、来訪の上くまなく明日香村を地理的、文化的に観察されて、ご遠慮がちにご承諾下さったと聞いています。この時点で、明日香村文化協会の学術部・芸能部の方々は本当に復元出来るのかという懐疑的な思いがうすれ、前進への使命感が強まったと言っておられました。

先生は古老の「唄やはやし」を採譜され、一部から五部構成の楽譜を作っていたとき、その上、雅楽の方々によるアンサンブルのCDまで作って

下さいました。

私たち明日香南無天踊りの部員は奈良県立万葉文化館の前庭で毎月公演しています。年を重ねるごとに、鑑賞者が増加し、やりがいを感じています。

先生の復元へのご尽力に感謝申し上げますとともに、ご健康で益々ご活躍されますことをご祈念申し上げます。

明日香万葉朗唱講座

主催・明日香村伝承芸能保存会

講師 犬養万葉記念館々長

岡本三千代先生

毎月一回開催・年間十一回

場所 明日香村中央公民館

二階研修室①

日時 毎月・第四木曜日

午後一時～二時三十分

会費 当日五百円、

年会費 三千元

受講生は県立万葉文化館での定例公演に出演することを目的としています。

年一回の村外研修旅行実施

万葉朗唱

明日香万葉朗唱は、上記講座の他に、万葉文化館での定例公演の練習を行っています。

万葉集を歌う会

毎月一回 第一木曜日

午後一時半～三時

中央公民館二階研修室③にて

会費 百円

初心者歓迎！

飛鳥蹴鞠

飛鳥蹴鞠は、紙面の都合で、次号に掲載いたします。

「伝承あすか」第十九号

発行 平成二十九年十二月

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

編集 明日香村伝承芸能保存会
題字 「伝承あすか」勝川喜昭書